

ソーシャル・イノベーションへの期待
～開発課題解決の新たな担い手として～
Social Innovation as a Solution to Development Agenda

復興とソーシャルイノベーション

2012年 1月24日 (火)
服部篤子 Atsuko HATTORI
hattoria@kisc.meiji.ac.jp

現場の課題 (市民セクター、地域再生の視点)

The challenge of Tohoku area

自宅を離れている避難者数: 33万人超 (2011年12月15日現在)

- ・ → コミュニティの再構築

高齢化、過疎化 (東北圏、過疎集落地人口は圏域全体の25.6%)

- ・ → コミュニティのゴールと合意形成

失われた雇用 (宮城県11万人、日経新聞2011年11月6日)

- ・ → 雇用創出

若者 (15歳～29歳) の人口流出 3県で1.8万人 (日経新聞2012年1月4日)

- ・ → 若者のリーダーシップ

社会問題、
経済問題
が山積

復興にむけて多様な
担い手の思いがある

新たなマーケットをつくる

新たな社会システムをつくる

新たな価値を提示する



**災害復興にむけて、ソーシャルイノベ
ションの概念が活かされる？**

ソーシャルイノベーションのファクター

担い手

- アントレプレナーシップ(起業家精神)をもった人々や組織(社会的企業、営利企業のイントラプレナー…)

分野

- 技術、デザイン、公共政策、地域開発、社会運動、社会起業家が取り組む分野など多岐にわたってみられる

目的

- 新しい価値を提示し、人々の行動の変化、社会の変化を促すこと

手法

- 単独で行うよりもむしろ、連携による事業にその可能性がある

（復興、地域再生の視点）

担い手

- 現地の人々のモチベーションをいかにあげるか。
- アントレプレナーシップをもった若手の夢をいかに実現させるか

分野

- 住環境の再生、商店街、産業復興、雇用創出、地域ケア、教育やエネルギー問題など複合的。限られたリースの中、地域の資源を見直せるか。

目的

- 長期にわたる復興、どのスパンでどのようなゴールを設定するのか。
- 新たな価値を提示できるのか。

手法

- 地域の人々と外部の人々と異なる文化間の協働。
- 相互理解を促せるのか。

解決にむけた取り組み事例



海は森の恋人事務所、
オークヴィレッジ木造建築研究所建設
2011年11月撮影

シンポジウム「東日本大震災・復興とソーシャルイノベーション」 “匠と地域資源を活かす「復興住宅」と雇用を考える” 12月1日開催

① CAN ENTREPRENEURSHIP SAVE THE WORLD?

エルミラ・ベイラズリー（国際経済開発ライター、元エンデバー政策担当副代表）

② “匠と地域資源を活かす「復興住宅」と雇用を考える”

上野英二氏（建築家、
オークヴィレッジ木造建築研究所
オークヴィレッジ専務取締役）

畠山信氏（NPO法人
森は海の恋人副理事長）

鈴木崇弘氏（城西大学大学院・
中央大学大学院客員教授。）



現地の若手 & NPOの挑戦

■ 日々、課題が変化する。

“復興の格差”が生じている

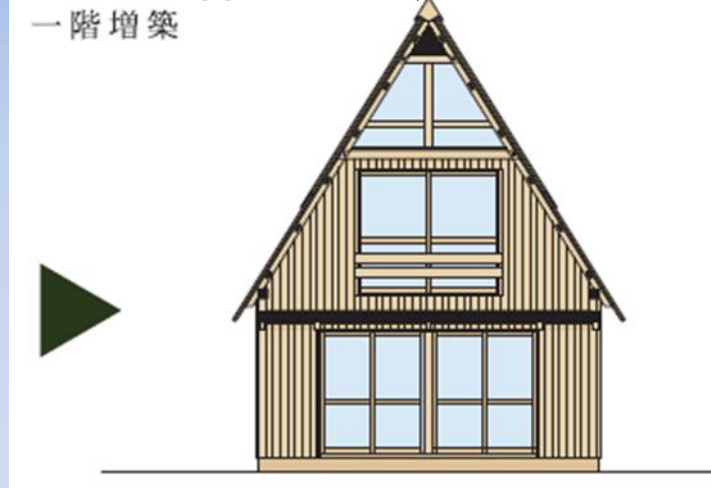
- 地域のシニアとの調整
- 地域に来るNPO/NGOとの調整
- ニーズ調査に来る人々に答えられる現地の人々は限られている

■ 未来に向かって

- 牡蠣の養殖再開
- こどもたち向け自然教育プログラム再開
- 杉の木の伐採。商店、住宅へ。
- 津波による新たな沼地の誕生。生態系の変化に、調査研究開始。
観光地への希望。＜地域資源の再発見＞

民間企業からの提案

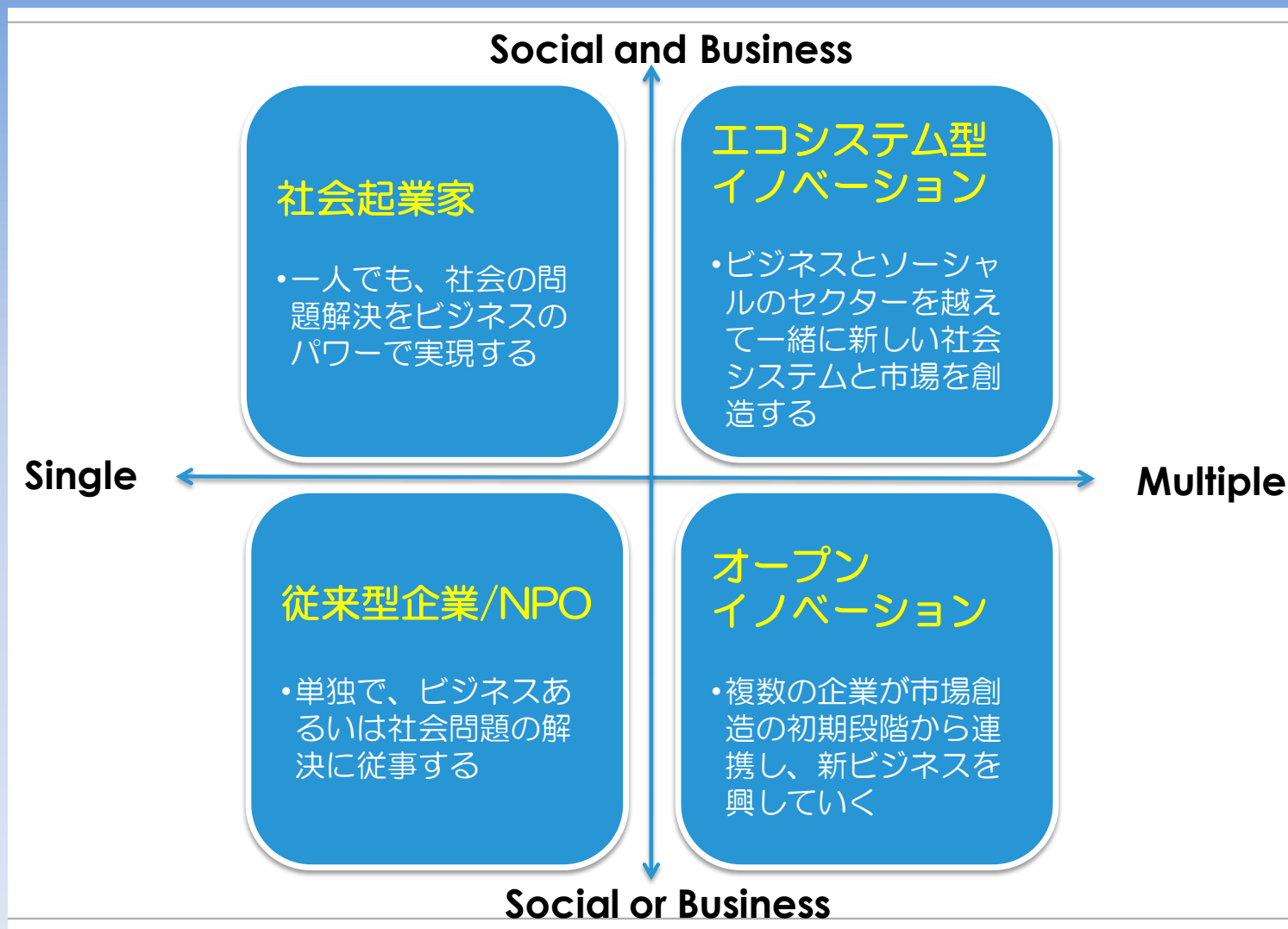
- 木のぬくもりを味わえる住宅を提供したい。
- 制度で定められた仮設住宅の面積に対して、設計を工夫すれば、できるだけ空間を広くとることができる。仮設住宅を無駄にせず、復興につなげられる。
- 飛騨高山で培った技術と匠を提供できる。(阪神淡路大震災で気づく。)



■資源を見直す

- 国産材は大量にある(戦後の政策で植林したものの、輸入材にとって代わった)
- 平地に耕作していない土地はたくさんある
- 仕事を失った働き手がたくさんいる
- 東北には気仙大工と呼ばれる匠と技術がある

「プラカデミアサロン2011“ソーシャルイノベーション”」 ソーシャルとビジネスの両立を多様な担い手で実現



復興に向けて; ソーシャルとビジネスの両立を多様な担い手で

- リソースを集める
 - 専門性、継続性のあるボランティア
 - 資金循環の促進
 - 市民ファンド、ソーシャルファイナンスの活発化
- アントレプレナーシップの醸成
 - ソーシャルビジネスの立ち上げ
 - 若手リーダーのサポート
 - 企業と社会セクターとの連携、都市と地方の連携